

不動産学の魅力

明海大学 不動産学部

第93回



岡田 楓矢
不動産学部
4年

り、建築と建築の間に生まれる余白を大切にしたい。

内部レイアウトは、一階のラウン

ジや共有スペースを中心とした開放

的な大空間から、三階の少人数のス

モールオフィスや個別ブースへと、

階が上がるにつれて空間の性格が変

化する構成とした。

内装計画では木質感を基調とし、

自然光を積極的に取り

込む開口計画を採用し

企業の短期拠点、ワーケーション需
要など、多様な利用形態に対応でき
る柔軟性も視野に入れていく。

本提案は、効率だけを追い求める

働き方から一歩離れ、時間や季節の

変化を感じながら働くという新しい

価値観を提示するものである。自然

と共にある建築が、働くという行為

そのものを見直すきっかけとなる可

能性を示したい。

自然光を積極的に取り

【教員コメント】

不動産学部の「卒業論文(選
択科目)」では、各自の4年間

の学修成果を、論文または設計提案

を企画書にまとめる。岡田さんの提

案では、自然と調和する外部空間の

検討に加えて、室内執務空間におい

て、季節や時間帯の変化を無意識に

感じられるような内装が計画されて

いる。建物だけでなく、働き方その

もの、使う人への意識が感じられ

る。

(前島彩子)

たな働き方の可能性を提案
するものである。近年、テ

栃木・那須町ワークスペース計画

自然と共に働く建築を具体化

レワー
クヤコ
ワーキ
ングスパー
スの普及に
より、働く
場所の選択
肢は大きく
広がってい
る。企業へ
の会社だけ
でなく、個
人

だ一般的といえる。

そこで、豊かな自然環境を有しな

がら首都圏からのアクセスも可能な

栃木県那須町を対象地とし、その広

大な自然を生かし、「自然の中で働

く」という新しい選択肢を建築によ

って具体化することを目指した。

敷地計画では、建物を分棟配置と

た。時間帯によって変化する光の入

り方や、外部景色の違いが室内に映

り込むことで、日常の中で自然を感

じられる空間を目指した。

不動産的観点からは、自然環境と

いう地域資源を建築的な価値へと再

構成し、働く場所そのものに付加価

値を与えることを意識した。単なる

オフィスではなく、滞在型ワークヤ

1階ワークスペースの内装計画
(上は50分の1 模型)

